

OfByForコラム 地域の 地域による 地域のための Something NEWS

第41回

地方と社会の活性化は人財と共感 ——産業10次化は人材育成が主軸

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p
代表理事 佐藤建吉

このコラムの39号では、軽井沢でのBook&Cafeについて紹介した。本号は、人との出会いが“OfByFor”の本質である、と感じたある出会いについて紹介する。

▼人材と人財
10年ほど前になるが、地域活性化学会の設立総会において、筆者は以下の質問をしたことを思い出す。学会の定款に相当する会則に「人財」という言葉が用いられていた。

「人財」か「人材」かの議論が巻き起こった。当時は、「人財」は、まだ認知度が低かったが、今では、普通に用いられる言葉となり、両者は、使い分けられるようになったといえる。

地域には、人材と人財の両方が必要である。人材は、雇用したい人を指す場合に用い

右から片野氏と藤田氏(麴屋三四郎酒舗本店にて)



「人財」が「人材」か「人財」かの議論が巻き起こった。当時は、「人財」は、まだ認知度が低かったが、今では、普通に用いられる言葉となり、両者は、使い分けられるようになったといえる。

このように、同氏は、食の安全や調理の信頼性確保のための制度つくりと指導を、国内外で進めてきた。そのキャリアを活かし、2020年のオリピック・パラリンピックに向け、関連する多くの協会を統一し、日本の信頼性保全を確かにしようと計画している。

先月、東京の御茶ノ水で開かれた日本酒文化の主催の東京の地酒を業しむ会で出会った片野隆氏を紹介したい。同氏は、老舗の大手ホテルチェーンの料理人だったある出来事から料理厨房部門のコンプライアンスを担当する責任者として、改革を実践された。その経験により、中国でも同部門の指導を担当された。現在は、伊豆で高級旅館の経営指導を行う。また、一般社団法人宿泊施設関連協会協会の理事をされている。

▼藤田氏の
わがふるさと応援隊
東京銀座の表通りは、日々新しくすることが義務付けられている一面があるが、銀座の裏通りは、終戦直後からの街の表情を垣間見ることができ、歴史を遺している。その銀座一丁目の裏通りに、藤田黎一氏が経営する居酒屋がある。麴屋

▼想いの共有
先日、片野氏を藤田氏の居酒屋にお連れし互いに紹介した。すぐさま二人は、それぞれの想いを共有し、これまでの人生を社会のために活かすことが自身の執る道である」と確認した。

彼らは、それぞれ、地域や社会のために、すでに行為行動している。それが出来るのは独特のキヤリアがあり、目的を持ち目標を設定しているからである。

▼片野氏との出会い
先月、東京の御茶ノ水で開かれた日本酒文化の主催の東京の地酒を業しむ会で出会った片野隆氏を紹介したい。同氏は、老舗の大手ホテルチェーンの料理人だったある出来事から料理厨房部門のコンプライアンスを担当する責任者として、改革を実践された。その経験により、中国でも同部門の指導を担当された。現在は、伊豆で高級旅館の経営指導を行う。また、一般社団法人宿泊施設関連協会協会の理事をされている。

▼藤田氏の
わがふるさと応援隊
東京銀座の表通りは、日々新しくすることが義務付けられている一面があるが、銀座の裏通りは、終戦直後からの街の表情を垣間見ることができ、歴史を遺している。その銀座一丁目の裏通りに、藤田黎一氏が経営する居酒屋がある。麴屋

▼想いの共有
先日、片野氏を藤田氏の居酒屋にお連れし互いに紹介した。すぐさま二人は、それぞれの想いを共有し、これまでの人生を社会のために活かすことが自身の執る道である」と確認した。

彼らは、それぞれ、地域や社会のために、すでに行為行動している。それが出来るのは独特のキヤリアがあり、目的を持ち目標を設定しているからである。

▼10次化の重要性
「農業の6次化」のような言葉は、農業以外の分野でも普及認知されてきた。従来の第1次産業、第2次産業、第3次産業の全体を含めた産業を、これらの数字を足し算して、「6次化」という言葉が生まれた。

その農業が、高齢化や減反政策により後継者不足となり、ますますシュリンク(縮退)している。こうした状況は、その他の多くの分野や産業にも共通し、地方の疲弊を加速させている。

三三四郎酒舗本店というその居酒屋は、名前のとおり発酵文化の普及を標榜し、お客様一緒に

り指導を、国内外で進めてきた。そのキャリアを活かし、2020年のオリピック・パラリンピックに向け、関連する多くの協会を統一し、日本の信頼性保全を確かにしようと計画している。

藤田氏は、一般社団法人わがふるさと応援隊という法人の代表でもあり、出身地の青森県ほか、東北と北海道の酒造をはじめ、全国の小さな酒造の東京で販売する動機づけをつくりだしている。

昨年12月には、青森県はじめ全国13の蔵元が参加して東北復興支援「銀座で日本酒大試飲会」を銀座すずらん通りで開催し、地方と東京を結びつけている。

先日、片野氏を藤田氏の居酒屋にお連れし互いに紹介した。すぐさま二人は、それぞれの想いを共有し、これまでの人生を社会のために活かすことが自身の執る道である」と確認した。

彼らは、それぞれ、地域や社会のために、すでに行為行動している。それが出来るのは独特のキヤリアがあり、目的を持ち目標を設定しているからである。

分野でも普及認知されてきた。従来の第1次産業、第2次産業、第3次産業の全体を含めた産業を、これらの数字を足し算して、「6次化」という言葉が生まれた。

その農業が、高齢化や減反政策により後継者不足となり、ますますシュリンク(縮退)している。こうした状況は、その他の多くの分野や産業にも共通し、地方の疲弊を加速させている。

そこで、いま新しい概念が生まれている。人材育成が急務な重要な産業である。人材育成を第4次産業と呼び、1次から入しようとしている。

そこで、いま新しい概念が生まれている。人材育成が急務な重要な産業である。人材育成を第4次産業と呼び、1次から入しようとしている。

この御二方に刺激を得て、筆者も、10次化の構造を自身の取り組みに導入しようとしている。